

## 東日本大震災発生後の 日本銀行の主な取り組み

▼三月十一日に発生した東日本大震災により被害を受けられた被災者の皆さまに対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。

今回の震災に対して、日本銀行では、震災直後から次のような取り組みを行ってきました。

### 震災直後の対応

▼日本銀行では、震災発生後直ちに、総裁を本部長とする「災害対策本部」を設置し、金融市場および金融機関の業務への影響等を把握するとともに、所要の対応を講ずる体制を整えました。また、震災直後も東北地方所在の支店・事務所を含むすべての本支店・事務所において、業務を継続しました。

### 金融機能の維持と 円滑な資金決済の確保

▼被災地での現金需要に応えるた

め、平日・休日を問わず、被災地の金融機関に迅速かつ十分な現金供給を行いました。

また、震災当日、内閣府特命担当大臣（金融）および日本銀行総裁の連名で「平成二十三年（二〇一一年）東北地方太平洋沖地震にかかる災害に対する金融上の措置について」を发出し、金融機関等に対し、預金通帳や印鑑等を紛失した場合における預金等の払い戻しなどについて、状況に応じ適切な措置を講じるよう要請しました。

さらに、その後も、関係機関と連携を図りつつ、日本銀行と金融機関とを結ぶコンピュータ・ネットワーク」をはじめ、わが国の主要な決済システムの安定的な稼働を維持しました。

### 損傷したお金の引き換え

▼日本銀行では、法令に定める基準に基づき、損傷したお金を新しいお金に引き換える業務を行っています。



日本銀行に持ち込まれた損傷紙幣と引き換え業務の様子

今回の震災に際しても、日本銀行の本支店において、被災された方々がお持ち込みになった損傷したお金の引き換えを実施していま

す（日本銀行の本支店から離れた地域にお住まいの方々は、お近くの金融機関にご相談ください）。

また、日本銀行が支店を設けていない岩手県においても、被災した方々が損傷したお金を引き換えやすくするため、岩手銀行のご協力を得て、盛岡市にある同行本店内に損傷通貨の臨時引換窓口を設置しました（四月二十日より業務を開始）。

### 金融政策面での対応 （金融緩和の強化等）

▼日本銀行は、震災発生後、金融市場の安定確保のため、市場における需要を十分満たす潤沢な資金供給を連日にわたって行いました。資金供給の規模は、かつての量的緩和政策時やリーマン・ショック後の金融危機時を上回るものとなっています。

また、当初二日間（三月十四・十五日）の日程で開催を予定していた金融政策決定会合を一日（三月

## 編集後記

■このたびの東日本大震災により犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに謹んでお見舞いを申し上げます。(編集一同)

■楽器の理想の音は人の声であるとの説がある。宗教で神が人の似姿で表されることがあるように、音楽は人の声で奏でられるとき、最も心に響くものになるのかもしれない。しかしながら、人が生来有する声が直ちに音楽になり得るわけではない。原始的、自然的な声は長く厳しい修練を経て、初めて心に達する音楽の要素となる。声を奏でるための技術は他の楽器の場合と同様、学ぶ必要がある。西洋音楽の場合、その技術の源はなお欧州にあり、本物を究めようとする者は源流にまでさかのぼる必要があることは言うまでもない。西洋文物に当たり前のように漬かって生活する現代の日本人にとって、自分のやりたいことを究めていくためには、内向き志向では済まないのだ。軽やかに流れる声を西洋音楽の技法でしっかりと統御して魂の音楽に昇華させる現代日本の名花にインタビューしながらそんなことを考えた。(大川)

■今回エッセイをお願いした木内昇先生は、フリーライターとしてご活躍されていた当時、弊誌連載の「にちぎんのある街から」(2005～2008年)へのご執筆で大変お世話になりました。第144回直木賞受賞により一躍時の人となられた木内先生。以前のご縁を頼りに執筆をお願いすると、快く引き受けてくださいました。これからも素敵なお縁を大切にしていきたいと思っております。(MK)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載しておりますのでご利用ください。

([http://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2011年夏号  
編集・発行人 鮎瀬典夫  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 株式会社アイネット  
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

\*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

十四日)に短縮した上で、リスク性資産(CP・社債・ETF・J-REIT)を中心に、資産買入等の基金を五兆円程度増額し、金融緩和を一段と強化することを決定しました。これは、企業マインドの悪化や、金融市場におけるリスク回避姿勢の高まりが経済に悪影響を与えることを未然に防止するための措置です。

さらに、被災地の金融機関を対象に、今後予想される復旧・復興



3月14日の金融政策決定会合後の記者会見の様相  
(写真提供：共同通信社)

に向けた資金需要への初期対応を資金面から支援するため、期間一年の資金を〇・一%の低金利で供給するオペレーションを総額一兆円の規模で実施することとしました。また、今後の被災地の金融機関の資金調達余力確保の観点から、担保適格要件の緩和を図ることとしました(いずれも、四月六、七日の金融政策決定会合で検討を開始する旨を公表し、四月二十八日の金融政策決定会合にて決定)。

(本記事は、四月末時点の公表内容に基づいています)

※ここでご紹介したさまざまな対応の詳細およびその他の対応(国庫・国債の取り扱い、外為法に関する手続き等)については、日本銀行HPに掲載しています。  
<http://www.boj.or.jp/> (トップページ)の「東日本大震災関連情報」をご覧ください)